



2月28日(水)、2年生の「個人探究発表会」が県伊那文化会館大ホールで行われました。1・2年生が集まり、12名の代表者が発表をしました。3人ずつの発表後、これまでにお世話になっている大学の先生や地域の行政の方々から感想や質問をしていただきました。

昨年度にはなかった姿として、発表が終わった後に、聞いていた2年生から質問が続けて出されました。自らの生活に直結するような内容についての質問、自らの探究活動に関わった質問などありました。関心を寄せ疑問を持つこと、湧いた疑問をそのままにせず言葉に出して伝えること、意見を聞いてさらに理解を深めること、ここにも探究の姿がありました。たて続けに4人の質問があり、時間の関係で会場での質問は限られましたが、それぞれの生徒が自分の中で思考を深めていたのではないかと思います。

信大農学部の細見昭先生の講評の中で、「様々な課題を個人の能力だけで解決しようとするとなしくなる。人の力を借りることができれば、上手に課題を解決していける。それをひっくるめてその人の力である」「今回の発表者は、そういった人たちであった」とおっしゃっていたことが、とても印象に残りました。“人の力を借りる”ということは、迷惑がかかるのではないかという気持ちで遠慮しがちですが、そう考えず、わからないことは聞く、専門的なことは教えてもらうという姿勢でよいと思います。それは、学校の中だけにとどまらず、地域にも目を向けてほしいと思います。

また、伊那市役所の唐木玲さんは、「探究の学びは、仮説を重ねていく。それをいくつ繋がられるかである。私は、実践の中で、問いを立て、仮説を重ねる努力をしている」とおっしゃられました。ご本人が本校の探究に関わり、自らの仕事と向き合いながら、ご自分の探究をしています。ぜひ生徒の皆さんには探究を続ける大人としての姿を参考にしてほしいと思っています。

今回、「人との出会い」「人とのつながり」「探究による自分の変容」といったキーワードが思い浮かぶ個人探究発表会でした。

